

【第5回赤磐市まちづくり審議会】第2次赤磐市総合計画(基本計画案)に関する意見(要旨)

日時日時:平成27年7月31日(金)9:30~11:30

場所場所:赤磐市立中央図書館 多目的ホール

審議会委員意見		対応状況
基本計画全体に関わる意見		
1	「わたしたち(市民)ができること」欄について、「市民」にしてしまうと、人ごとになりやすい感があると思うので、区としてやること、NPO団体がやること、PTA保護者がやることなど、私たち自身がやらないといけないということが認識できるような書き方にしてはどうか。	(第5回審議会での回答内容) 基本計画ではこの枠組みで示して、施策を動かしていくシステムを具体的に検討していく中で、個々の役割についても検討していくこととしているが、御意見を踏まえて考えさせていただきます。 (対応状況) →基本計画の様式を修正
2	「民間活力の活用」、「官から民」へ、「民間でできることは民間で」、「民間でできないことは行政で」といった、そのあたりのことをもう少し具体的に、この基本計画に書くだけでなく、全体を通して検討していただきたい。	【支えあいを中心とした協働によるまちづくり推進プログラム】の【概要】に意見を反映
3	合計特殊出生率のアップ対策について、住みやすいまちになれば若者も来て(住み)、子どもも増えるのかもしれないが、この辺の施策が薄い気がする。たとえば、赤磐市独自の第3子への支援を行うとか、そういったことで考えられることがあるのではないかと。	今後、具体的に事業を検討していく中で参考にさせていただく。
4	子どもの貧困問題にも関係してくるが、 ①「本当に困っている人、自分の努力ではどうにもならない人」はしっかりと行政が支援しなければならないと思う。 ②何が本当の福祉かということを考えたときに、所得制限や一部負担(受益者負担の適正化)ということも検討していく必要があるのではないかと。	①について 【安心して家庭を築ける環境創出プログラム】及び【支えあいを中心とした協働によるまちづくり推進プログラム】の施策名【支えあいによる地域のつながり】に意見を反映 ②について 第5部【重点戦略の実効力ある施策の推進のために】の第2節【市財政の健全化】に意見を反映
「企業誘致による安定的で良質な雇用創出プログラム」に関する意見		
5	最先端の世界に誇れる企業が赤磐市に来れば、市が活性化し、賑わいが増すと思う。	(第5回審議会での回答内容) 最先端の企業が来ることは望ましいが、現状を踏まえながら、いろいろな企業に幅広く接触して、赤磐市の雇用や活性化に効果が期待できる企業誘致を進めていきたい。
6	重点施策に書いている「企業誘致促進アドバイザー制度の創設」など、企業の情報収集や企業へのアプローチを行うことは必要なので進めてほしいが、企業が立地を検討する際は、企業自身が適地を探して動くのがほとんどになるので、企業が調査をしたときに赤磐市の情報が見つかるような、例えば、ゼネコンや金融機関に企業から引き合いがあったときに、赤磐市をPRしてもらえような体制をとっておくのも有効ではないかと思う。	推進施策【優れた創業環境の情報発信】に意見を反映
7	目標指標「新たな企業用地の確保 10ha」について、特に大企業が追加投資するときは、現在ある工場・施設の隣に新たな工場・施設をつくることをまず最優先にするので、用地の選定に当たっては、拡張性のあるところを選定したほうがよい。	重点施策【新たな企業用地の確保】に意見を反映
8	目標指標「新規立地企業の雇用創出数 150人」について、新規企業立地件数の目標が5件なので、1件当たりの雇用創出が30人となるが、もう少し高い目標を掲げてはどうか。	(審議会での回答) ご指摘のとおりだと思うので、雇用創出数の目標を再検討する。 (対応状況) →目標指標を500人に修正
後日意見聴取	9 企業誘致希望地区の調査を実施してはどうか(自治区で区有林を所有しているか等)	重点施策【新たな企業用地の確保】に記述の「企業立地適地調査」等により具体的な施策を検討する際の参考にさせていただく。
後日意見聴取	10 「積極的な企業誘致の展開」のところに、企業用地の情報提供についても記載してはどうか。	推進施策【優れた創業環境の情報発信】に意見を反映

「商工業・観光振興による賑わいと活力創出プログラム」に関する意見			
	11	赤磐市には倉敷のような伝統的な町並みはないと認識しているが、赤磐市には古代の資源があり、古代ミステリーツアーとか、古代の史跡等にはファンが多くいるので、こういった資源の活用が可能だと思う。	【周遊・滞在できる観光ルートの形成】により、「歴史」を観光資源とした観光ルートを形成する際の参考にさせていただく。
	12	今年の永瀬清子の里づくり事業では、谷川俊太郎さんによる講演が行われ、永瀬清子は日本を代表する現代詩人であり、世界を代表するフェミニストであると言われていたが、現在、永瀬清子の生家が観光名所となっていない。 生家の保存・整備をすることで、生家をかすめてそこから赤磐をめぐるという観光の拠点になるのではないかと思う。	【周遊・滞在できる観光ルートの形成】により、「文化」を観光資源とした観光ルートを形成する際の参考にさせていただく。
	13	スポーツの面も観光の資源として役立つのではないかと思うので、既存のスポーツ施設の情報を市外に向けてアピールすれば、滞在型の観光として有効利用できるのではないか。	【周遊・滞在できる観光ルートの形成】により、「スポーツ」を観光資源とした観光ルートを形成する際の参考にさせていただく。
後日意見聴取	14	「観光受入体制の整備」について、滞在型観光を進めるにあたり、「おもてなし家庭」を募集してはどうか。	今後、観光受入体制の整備に関する事業を検討する中で、研究させていただく。
後日意見聴取	15	県内土木技術向上と振興の強化を目的として、土木技術センター研修会場を設置	今後、研究させていただく。
「強い農業の確立プログラム」に関する意見			
	16	是里でぶどうづくりをされている方が、赤坂を通過したら1時間以上かかる、アクセスが良くないということを言われていた。赤坂へバイパスをつくるということを考えているのでしょうか、美作岡山とどっちに重点を置かれているのか。	(第5回審議会での回答内容) 美作岡山道路H29年度に瀬戸から吉井ICまで開通予定、赤磐市内のことだと、下市の交差点を改良して交通渋滞の緩和を目指す計画もある。このように、市内移動の時間短縮を図ることで、農業の6次産業化、観光などに寄与したい。
	17	学校給食の地産地消は今後進めていく必要があると思うが、状況はどうなっているのか。	(第5回審議会での回答内容) 平成18年から給食センターの栄養教諭、栄養指導を含めた部会をつくり、「赤磐市の旬の食材を学校給食に」という取り組みを進めている。今年度からは鳥肉等も地産地消食材に取り入れ、献立もつくっていくような取り組みを進めている。
後日意見聴取	18	「農産物の高付加価値化」について、桃、ぶどう等の樹木や水稻のオーナー制度を確立し、企業等と契約して安定して高値で販売できる施策を展開してはどうか。	オーナー制度等について、今後様々な事業を検討していく中で、参考にさせていただく。
後日意見聴取	19	「農産物の高付加価値化」について、雄町米の注文が全国から相次いでいるにもかかわらず、品物がないため断っているのが現状である。「今こそ関係者一丸となって栽培の拡大を図るよう努力する。」といった文言の追加をしてはどうか。	供給体制の確立について、重点施策【農産物の高付加価値化・地域ブランド化の推進】に意見の趣旨を反映
後日意見聴取	20	「担い手への農地集積と生産基盤の整備」について、 ・残土処理場の利用 ・ハウス栽培による水耕栽培(葉物野菜中心) ・安全安心を売り物で栽培ができれば需要も可	安全安心について、重点施策【農産物の高付加価値化・地域ブランド化の推進】に意見を反映
「安心して家庭を築ける環境創出プログラム」に関する意見			
	21	クラウドワークス(在宅就労)とあるが、これはスキルを持っている人に限られるのではないか。赤磐市としてどういうことを想定しているのか。	(第5回審議会での回答内容) 市で行ったアンケート調査の結果によると、ある程度子育てが落ち着いて、働きに出られていない方が結構おられる。「家を空けられない」といった事情がある方もいるので、多様な働き方ができる選択肢の一つとして最近注目を集めているクラウドワークスを考えている。 これは、専門的な技術を要する仕事もあれば、単純な入力作業のような仕事まで幅広い業態があると聞いているので、選択肢の一つとして提案できたらと考えている。

「安心して出産・子育てができる環境創出プログラム」に関する意見			
	22	4人目の子どもが生まれたら100万円だとか、子育て支援でバラマキをしている市もあるが、お金を使わなくてもできる「母親が心を寄せられる相談員制度」とか、そういったものをつくっていくべきではないか。	重点施策【地域ぐるみの子育て支援】に基づく事業において、「母親が心を寄せられる相談体制」の充実を図らせていただく。
	23	学童保育では、学校の宿題をみんなでその場でできる。素晴らしいことだとは思いますが、学童保育に行くことで、親も楽、子どもも楽な状況になっており、親と子の関わりが薄れてきているのではないかと。親子の触れ合う時間を増やすことで、親育ち、子育てができるのではないかと。	今後、施策を検討する際の参考にさせていただく。
後日意見聴取	24	「出産・子育ての不安に対する情報・サービス提供体制の整備」について、 ①1.5歳児、3歳児健診といった早期段階で、発達障害スクリーニングや専門家支援を行い、障害時の発見だけで終わらない早期支援体制の整備。 ②障害時の発達段階に応じた支援システムを作り、周辺の学校機関と十分情報を共有し幼稚園から就学、就職まで一貫したアプローチを提供できる専門機関や専門職を配置し、障害児・両親等が気軽に相談が出来たり悩みを話すことができ、支援へとつなげられる体制づくり。	①について 推進施策【母と子の健康推進】の「疾病」等の早期発見・早期治療に発達障害も含めることとしている。 ②について 【子どもが健やかに育つ教育環境創出プログラム】の推進施策【特別支援教育の充実】により、体制・対応の充実を図っていく。
後日意見聴取	25	「子育てサービス・保育サービスの充実」について、「認定こども園」の用語の説明を加えてはどうか。 ※幼稚園と保育所の良さを併せ持つ教育と保育を一体的に行う施設。	用語の解説欄を設け、用語の解説を行う。 ※解説が必要と思われる他の語句についても同様
後日意見聴取	26	「地域ぐるみの子育て支援(地域の子は地域で育てる)」について、高齢者は人生経験豊かで子育ても終えているので[子育て応援塾](仮称)等を各地へ作り自らの生きがい活動と合わせ活躍していただいてはどうか。	【地域ぐるみの子育て支援】に基づき今後事業を検討する中で、参考にさせていただく。
後日意見聴取	27	「地域ぐるみの子育て支援(地域の子は地域で育てる)」について、「母子と地域との交流の促進…」→母子だけでなく「母子・父子」としてはどうか	「親子」に修正
「子どもが健やかに育つ教育環境プログラム」に関する意見			
	28	「小中学校教育の充実(確かな学力の定着)」のところで、タブレットやマイクロステップドリルということも大切だと思うが、「土日に図書館を利用する」、「家族読書」など本とのふれあいの部分が大事ではないかと思う。 家庭での読書を進めるようなことを書いていただきたいと思う。	(第5回審議会での回答内容) 確かにその部分が抜けていると思う。幼稚園、小学校、中学校では子どもたちの読書には力を入れているところなので、考慮させてもらう。 (対応状況) →重点施策【小中学校教育の充実】に意見を反映
	29	学力の定着というところの感覚をどう持つか、全国のアンケートによると、学力が低いほどスマホの利用(率?時間?)が高いことがはっきりと言われている。スマホとかメディア接触が多いほど学力が必ずおちるということはデータで出ている。今後はメディア教育が重要になってくると思うので、ああしたいこうしたいという計画も結構だが、今子供たちの学力や成長発達を阻んでいる環境をどうするかという計画も立てていかなければいけない。そのことが抜けている。	重点施策【小中学校教育の充実】に意見を反映
	30	ふるさと教育を徹底的にやらなければならないと思う。もともと住んでいる人と新しく入ってきて住んでいる人の両方があって市ができていと思うが、ふるさとを子どもたちにどうやって認識させるか。副読本などの取り組みも徹底して、やっていくべきではないかと思う。	重点施策【郷土の魅力を認識できる教育活動の推進】に基づき、しっかりと取り組んでまいりたい。
	31	親の経済力による学力格差の問題について、相対的に貧困率の高いひとり親家庭、中でも母子家庭に手厚い支援があることが結果的に子どもの学力をあげていくので、この辺りのことを盛り込んでいただきたい。	今後施策を検討する際、参考にさせていただく。
後日意見聴取	32	保、幼、小、中だけでなく、高校までが充実していたら、もっと地元で根付く子どもたちの育成ができるのではないかと思う。 人口減少で保、幼、小、中と通学通園等も時間がかかる地区もある。高校も1時間以上かかる子どもたちも少なくない。	高校の設置は難しいと考える。 引き続き、公共交通網の確保に努めてまいりたい。

「移住・定住が進むまち創出プログラム」に関する意見			
	33	移住してくる方は、「定年退職後」、「子どもが小学校に入る時期に合わせて」などいろいろなパターンがあると思うが、何が一番大切かという環境整備が大切だと思う。	重点施策【移住・定住がかなう働く場の確保】や【魅力的な中心市街地の形成】、その他各推進施策の充実を図ることで、望んで定住してもらえる環境づくりを進めていく。
「支えあいを中心とした協働によるまちづくり推進プログラム」に関する意見			
	34	今後赤磐市は小規模多機能自治を目指しているのか	(第5回審議会での回答内容) 市民の行政への参画、市民主体のまちづくりというのは今後必要になってくると思う。 今現在、まちづくり事業検討委員会において小規模多機能自治についても検討している。さらに検討を進め、赤磐市にはどういう型がマッチするのか等を考えていきたいと思う。 また、まちづくり協議会の設置を目指し、小規模多機能自治のようなまちづくりを進めていきたいと思う。
	35	資料2の【支えあいを中心とした協働によるまちづくり推進プログラム】の目標指標がピンとこない、【高齢者が生きがいを持ち元気に暮らせる地域創出プログラム】についても同様。 例えば、地域支えあいのグループ(※)を5年間で地域に10や20つくるなど、そういう目標指標をつくってみてはどうか。 (※)保育、買い物支援、送り迎え、高齢者の見守りなどをアクティブシニアや子育てが終わった女性の方などの活用により実施する。	【支えあいを中心とした協働によるまちづくり推進プログラム】の目標指標に意見を反映
	36	行政施策の根幹には、「人間尊重」、「人権尊重」、「市民の命を守る」といった、人権尊重社会の形成が必要だと思う。 このことが、総合計画の一番最初のところにある「はじめに」の部分にないので、入れるように検討してほしい。	総合計画の冒頭部分、市民憲章の下部に反映
「高齢者が生きがいを持ち元気に暮らせる地域創出プログラム」に関する意見			
	37	高齢者が今までの経験や技術を生かして、小学生や中学生に何か教えることのできる環境、例えば、理系の仕事をしてこられた方は、算数を教えるなど、そういったシステムをつくれれば良いと思う。	【高齢者の就労支援と社会参加への支援】に基づき事業を検討する際の参考にさせていただく。
	38	高齢者のボランティア活動を行政がサポートし、「有償ボランティア」化することで、高齢者の生きがいづくり、社会参画につながるのではないか。	【高齢者の就労支援と社会参加への支援】に意見を反映
後日意見聴取	39	「生涯を通して健やかに暮らせる生活の質の向上推進」について、市民カード等とリンクし、自分の体力・能力状態に応じたパワーリハが受けられ、住民同士が誘い合って通うことのできる場所や「65歳大学」のような生きがいを皆で見つけられ、地域に持って帰れる健康増進プログラムを行える場などを整備することで、生活習慣病や要介護を受ける原因疾患の脳血管疾患、転倒等を防ぎ、健康維持・増進を促進できる事業の配備。 定年退職後の趣味づくりや無気力症状、認知病予防事業を行える体制整備。	今後事業を検討する際の参考にさせていただく。
後日意見聴取	40	高齢者の生きがい創出として、非農家に対して遊休地を提供してもらい、農産物を栽培することでモノ作りの楽しみを味わいながらも近所へ提供したり、朝市や青空市へも販売し収入を得る体験もする →「遊休地を活用した生きがい創出」施策の追加	今後事業を検討する際の参考にさせていただく。